

## 1.目標（案）

かつて吉野川は、大雨のたびに洪水を繰り返し、住民を苦しめる暴れ川でした。その一方で、流域の人々に様々な恵みを与えてきました。

川の氾濫で運ばれた土砂は藍作に適した肥沃な土地をつくり、アユやウナギ、ジンゾク（ハゼ類）などの様々な川の幸は、食卓を彩り、食文化を育んできました。川辺の竹林は和傘や釣竿づくりなどの生業を、吉野川の舟運は流域に大きな振興をもたらしました。現在は、大歩危・小歩危等の景勝地に多くの観光客が訪れ、ラフティング、釣り等のさまざまな活動の場となり、観光資源として地域振興の一端を担っています。

川からの恵みは経済的なものだけではありません。河口の雄大な風景や、中流の河原の白と空の青に竹林がそよぐ風景、上流の岩場の荒々しい風景は、ふるさとの風景として流域の人々の心に刻まれ、精神的な恵みを与えています。

これらの自然からの様々な恵みは、生態系サービスと言われ、生物多様性の高い自然を基盤として成り立っています。

「吉野川流域生態系ネットワーク」は、ふるさとの生きものの生息・生育場所を守り、再生し、つなぐことにより、自然と共生する流域の実現を目指す取り組みです。これは、生きものや自然を守ることをのみを目的として行うものではありません。流域に暮らす人々が、様々な自然からの恵みを将来にわたって得られるようにすることを大きな目的としています。

「吉野川流域生態系ネットワーク」は、生きもののすみやすい環境を守り、取り戻す取り組みを通じて、人と自然の関わりを深めるとともに、流域の魅力づくりや地域活力の向上に役立てることを目標として行います。

これによって、川辺に自然と触れ合う子どもたちの笑い声が響き、自然とのふれあいや地域の食文化、美しい風景を求めて多くの人々が訪れ、住民が誇りと愛着を持ちながら暮らしていくことのできる流域を実現していきます。

## 2.基本方針（案）

前記の目標を実現するために、吉野川流域生態系ネットワーク形成の取り組みは、3つの基本方針に基づいて実施します。

### ■基本方針1

生きもののすみかとなる「場所」を守り、再生し、つなぐことにより、多くの生きものが訪れ、生息・生育する流域にする

吉野川流域には、吉野川をはじめとする河川や水路、ため池、ハス田、水田、林、草地などのさまざまな「場所」があり、生きものはそれぞれの生態に適した場所に生息・生育しています。

これら、生きもののすみかとなる様々な場所を守り、再生し、つなぐことにより、多くの生きものが訪れ、生息・生育する流域にします。

### ■基本方針2

ふるさとの自然に親しむ場や機会を増やし、流域への愛着や誇りを育む

生態系ネットワーク形成の取り組みを通じて、子どもたちをはじめとする広い世代の流域の人々が、吉野川流域の自然に親しむ場や、自然とふれあう機会を増やします。

これによって、ふるさとの自然や自然に育まれてきた文化、ふるさとの風景への関心を高め、吉野川流域に暮らす誇りや愛着を育みます。

### ■基本方針3

地域の魅力づくりや活力の向上に役立て、多くの人や組織の参加する取り組みにする

川の幸を活かした伝統的な食文化や、レクリエーション活動、エコツアー、地域のイメージアップなど、地域振興に関わる事業に取り組むことにより、人々の関心を高め、多くの人や組織が参加する広がりを持つ取り組みとしていきます。

## プロジェクト（案）

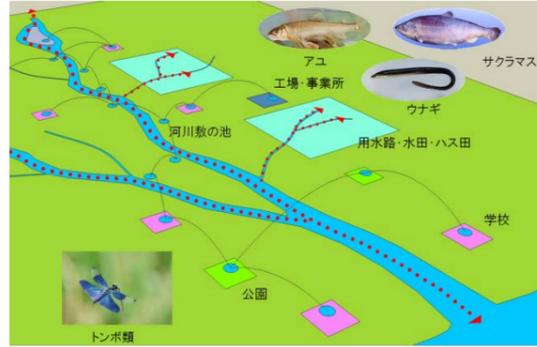
### A.水辺のネットワークプロジェクト

#### A 1.海を含めた水辺のネットワーク形成

【目標種】アユ・アユカケ・ウナギ・サツキマス

■取組

- 1.生息実態の把握（生息状況・分断状況等）
- 2.登りやすく降りやすい魚道への改善
- 3.河川から水田までの連続性の確保
- 4.アユやサツキマスの産卵場所やアユカケの生息場所の保全・再生（土砂管理等による瀬・淵の保全・再生）
- 5.ウナギの寝床づくり
- 6.カワウのコロニーの管理
- 7.アユの郷土料理等を活かした地域振興



#### A 2.身近な水辺（水路や池）のネットワーク形成

【目標種】カワバタモロコ・チュウガタシマスジドジョウ・シマヒレヨシノボリ・ミナミメダカ・トンボ類

■取組

- 1.水路・ため池・湧水の現状把握
- 2.水路・里道の分断・消失等の防止
- 3.生物の生息・生育しやすい水路・池への改善（水質・構造等）
- 4.湧水環境の保全
- 5.河川敷における池・ワンドの保全・創出
- 6.学校等での池や流れの創出
- 7.ハス田周辺の外来植物の駆除（ボタンウキクサ・ホテイアオイ・オオフサモ等）
- 8.ハス田の保全
- 9.水路や里道を活かしたエコツアーの実施

### B.大型水鳥と渡り鳥を迎えるプロジェクト

#### B 1.コウノトリやツル・マガンを迎える環境づくり

【目標種】コウノトリ・ナベヅル・マナヅル・マガン・ヒシクイ・カモ類・チュウヒ・ハイロチュウヒ

■取組

- 1.吉野川河川敷における池や草地のある多様な湿地環境の保全（支川合流部・善入寺島周辺等）
- 2.河道掘削等による湿地環境の創出
- 3.吉野川中洲や善入寺島周辺におけるツル類のねぐらの保全
- 4.ハス田の保全
- 5.善入寺島周辺の多様な水辺環境の再生と連動したエコツアーの実施



河川敷の湿地(高瀬橋付近)



ハス田(鳴門市)

#### B 2.シギ・チドリを迎える環境づくり

【目標種】シギ・チドリ類

■取組

- 1.土砂管理等による干潟・中洲の保全
- 2.河道掘削等による湿地環境の創出
- 3.ハス田の保全

### C.下流域の人と生きものが集う川辺プロジェクト

#### C 1.旧吉野川・今切川の自然拠点の保全と創出

【目標種】コウノトリ・シギ・チドリ類・トンボ類

■取組

- 1.河道掘削等による湿地環境の創出
- 2.旧吉野川の河畔林の保全と活用
- 3.水辺の生きもの観察スポットづくり
- 4.外来植物の駆除  
(ナガエツルノゲイトウ・ホテイアオイ等)
- 5.オオクチバスへの対策
- 6.遊覧船等によるエコツアーの実施



旧吉野川の河畔林

#### C 2.吉野川汽水域の自然拠点の保全と再生

【目標種】カヤネズミ・コウノトリ・シギ・チドリ類・ツバメ・オオヨシキリ・シオマネキ・ルイスハンミョウ・干潟性のハゼ類・トンボ類

■取組

- 1.水草の生育状況の把握（コアマモ・オニビシ・クロモ等）
- 2.シオマネキの稚蟹の分布調査とマップ作成
- 3.ツバメのねぐら調査とマップ作成
- 4.河道掘削による湿地環境の創出
- 5.ルイスハンミョウ保護のための干潟と沖洲海浜公園のネットワーク
- 6.土砂管理等による干潟・中洲の保全
- 7.淡水の管理による汽水環境の保全
- 8.希少な動植物の生息・生育環境の保全（第十堰下の湧水、小松海岸、干潟等）
- 9.水辺の生きもの観察スポットづくり
- 10.保全と利活用の調整（自然を利用するマナーの向上など）
- 11.外来植物の駆除（ナルトサワギク等）
- 12.オオクチバスへの対策
- 13.エコツアーの実施（潮干狩りの復活等）
- 14.スジアオノリ、シジミ等の特産品の保全



住吉干潟

## D.中流域のふるさとの川再生プロジェクト

### D1.美しい竹林の再生

【目標種】マイヅルテンナンショウ・アキザキヤツシロラン

■取組

- 1.竹林の管理推進
- 2.竹林管理による発生材利用の促進
- 3.竹林に特有な希少植物の保護・増殖



竹林

### D2.れき河原や瀬・淵等の保全と再生

【目標種】ナベヅル・ソデグロヅル・コチドリ・コアジサシ・アユ・アユカケ・サツキマス・**ジンゾク(ヨシノボリ類)**

■取組

- 1.ヨシノボリ類の生息状況調査
- 2.河道内の樹林管理の促進
- 3.河道掘削等によるれき河原の保全・再生
- 4.河道掘削等による瀬・淵の保全・再生
- 5.外来植物の駆除（シナダレスズメガヤ等）
- 6.樹林管理による発生材の利用促進
- 7.吉野川中洲や善入寺島周辺におけるツル類のねぐらの保全
- 8.吉野川河川敷における池や草地のある多様な湿地環境の保全（支川合流部・善入寺島周辺等）



れき河原

## E.上流域の人と自然の活力向上プロジェクト

### E1.吉野川上流域の自然の保全・活用

【目標種】ヤマセミ

■取組

- 1.水辺の人工林の広葉樹林への転換
- 2.環境に配慮したリバースポーツ（ラフティングなど）の実施
- 3.ヤマセミの生息環境保全
- 4.イワナ（国内外来種）への対応

### E2.支川上流の自然と文化の継承（宮河内谷川等）

【目標種】サシバ・ジンゾク(カワヨシノボリ)・ナガレホトケドジョウ・ゲンジボタル・サワガニ

■取組

- 1.ジンゾクの実態調査
- 2.ジンゾク・ゲンジボタル・サワガニなどの生息しやすい河川環境の保全と再生
- 3.ジンゾク狩りなどの地域文化の継承と観光振興への活用
- 4.砂防ダムに堆積した砂礫の除去や砂防ダム等による分断化の解消
- 5.里山管理の促進



宮河内谷川上流

## F.川に人が集い・親しむプロジェクト

### F1.川への興味と関心の醸成

■取組

- 1.吉野川流域の魅力発信（四国一の清流、吉野川らしい風景、ブランド化、写真コンテストなど）
- 2.食文化や生活文化・川と関わる伝統的な産業の伝承と地域振興への活用（潮干狩り、ジンゾク狩り、ジンゾクたらいうどん、アユの郷土料理、スジアオノリ、シジミ・カンドリ船・うちわづくり・竹竿づくり・善入寺島の旧遍路道、生物資源を保全するための地域ルール、資源マップ作りなど）
- 3.生きもの観察スポットづくり
- 4.活動・行事の地域住民等へのPR

### F2.川の自然を学び・親しむ機会の提供

■取組

- 1.エコツアーの推進
- 2.環境に配慮したリバースポーツ（ラフティング・カヤックなど）の実施
- 3.子供が川遊びをする機会の提供と、川遊びに適した場所の保全、川の事故防止に向けた啓発
- 4.学校における環境教育での利用の促進
- 5.人材育成プログラムの実施
- 6.水辺の楽校の有効活用
- 7.ゴミの投棄防止などの啓発
- 8.川辺のスポーツする場の整備（サイクリングロード、ジョギングロード等）

## G.協働による事業推進プロジェクト

### G1.協働による自然の保全・管理の推進

■取組

- 1.希少種や生物多様性のホットスポットの情報集積と共有
- 2.協働による外来生物の駆除の推進

### G2.協働による推進体制やしくみづくり

■取組

- 1.多様な主体の自発的な活動を促すしくみづくり（活動グループのネットワーク化等）
- 2.協働の事務局づくり
- 3.企業のCSR活動との連携促進
- 4.地域間の連携促進
- 5.アドプトプログラムの充実
- 6.地域住民との合意形成